

研究開発事業に係る技術評価書（事前評価）

事業名	地域の技術シーズ等を活用した研究開発型スタートアップ支援事業	
担当部署	経済産業省 産業技術環境局 技術振興・大学連携推進課 経済産業省 産業技術環境局 エネルギー・環境イノベーション戦略室 (国研)新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO) イノベーション推進部	
事業期間	2022 年度～2022 年度（1 年間）	
概算要求額	2021 年度補正予算 3,350（百万円）	
会計区分	<input checked="" type="checkbox"/> 一般会計 / <input type="checkbox"/> エネルギー対策特別会計	
実施形態	経産省(交付金) → NEDO → 事業者	
類型	<input type="checkbox"/> 複数課題プログラム / <input type="checkbox"/> 研究開発プロジェクト / <input checked="" type="checkbox"/> 研究資金制度	
事業目的	<p>SDGs に代表される地球規模で解決すべき様々な社会課題は、地域にも多数存在しており、地域に存在する学術研究機関等の英知も結集しながら様々な地域からのスタートアップの創出が不可欠。しかし、国内 VC による国内スタートアップへの投資は、7 割以上が東京に集中しており、投資を地域へと向けていくことが求められる。</p> <p>また、2030 年の温室効果ガス排出量46%削減などの野心的な目標の達成には、スタートアップの技術開発力が必要不可欠。しかし、エネルギー・環境分野においては、事業化までの期間が比較的長期にわたり、投資を集めるのが困難であるなど資金調達の面で厳しい環境にある。</p> <p>このため、本事業では、エネルギー環境分野をはじめとする、社会課題を解決するための具体的な事業計画があり、持続可能な社会の創出に資するスタートアップの事業化の支援を通じて、自律的なリスクマネーの供給拡大とそれによる更なるロールモデルの創出を実現する好循環(スタートアップエコシステム)の形成を目指す。</p>	
事業内容 (7ヶ化*ティ)	<p>【スキーム①:シーズ発掘及びその実用化に向けた支援】</p> <p>地域に眠る技術シーズやエネルギー環境分野における技術シーズ等を、起業により社会実装するために必要な実用研究フェーズの費用を助成。出資に関する関心表明書の取得により補助額の上限を緩和するステージゲート型の支援を実施。</p> <p>【スキーム②:ミドル・レイター期への迅速な移行に向けたビジネスモデル構築支援】</p> <p>地域に眠る技術シーズやエネルギー環境分野における技術シーズ等を有するスタートアップが事業化・拡大期(ミドル・レイター期)へ迅速に移行できるよう、VC や事業会社等の外部投資家による支援を受けて行うビジネスモデル構築に係る費用を助成。</p>	
	研究開発目標（アウトプット目標）の指標	研究開発目標（アウトプット目標）
2022 年度末	事業終了時点で、支援事業者が VC 等外部投資家又は事業会社から関心表明書又は購買に関する関心証明書を手に入れる割合	50%以上
研究開発成果（アウトプット）の受け手		
研究開発型スタートアップ企業		

アウトカム指標		アウトカム目標
2023 年度	支援終了 1 年以内に次のステージの資金調達又は事業化に成功する割合	50%以上
2025 年度	-	企業価値又は時価総額が 10 億ドル以上となる、未上場ベンチャー企業（ユニコーン）又は上場ベンチャー企業を 50 社創出に貢献
外部有識者の所見【技術評価】		
<p>本事業の取り組みは非常に重要であり大きな成果を期待している。他方、アウトカム目標の達成のために、特に以下の点を留意しながら進めてほしい。</p> <p>エネルギー・環境分野は、投資規模が大きかったり、エネルギー需要が小さい地域では収益が上がりにくい等の難しさがある。スタートアップの取り組みを成功させるためには、スタートアップ単独では難しく、電力会社等の地域の様々な関係者の巻き込みが必要となってくることから、このあたりについてアドバイスやサポートする体制を十分に機能させる必要がある。</p> <p>〔第 59 回産業構造審議会評価ワーキンググループ〕</p>		
上記所見を踏まえた対処方針		
<p>いただいた御指摘を踏まえ、VC 等の投資家に加え、地方電力会社や事業会社などの関係者も積極的に巻き込み、スタートアップを包括的にサポートするエコシステムの形成を図ることとする。</p> <p>具体的には、まずそうした関係者とスタートアップや潜在的な起業家との連携の場を生み出すべく採択審査に先立って幅広い関係者を招いた交流型のピッチイベントを開催するとともに、そうした関係者からの出資又は購買関心表明を伴う案件を優遇するなど連携に向けたインセンティブを付与することとする。さらに、NEDO「事業カタライザー」の枠組みを通じて、事業会社等の人材による支援対象スタートアップへのサポートを行うなど、直接的なサポートにも積極的に取り組むこととする。</p>		

地域の技術シーズ等を活用した研究開発型スタートアップ支援事業

令和3年度補正予算額 **33.5億円**

事業の内容

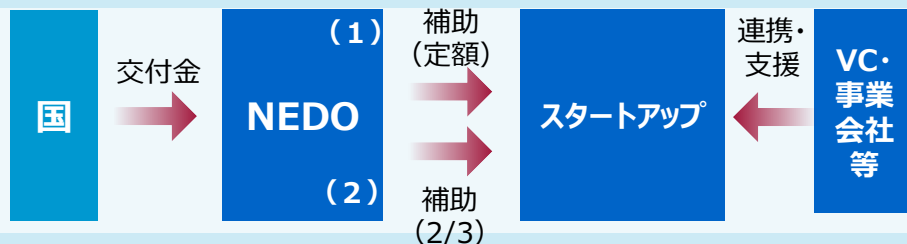
事業目的・概要

- 日本経済が、DXやCNの流れに対応しながら成長を続けるためには、地域に眠る技術シーズ等を十分に活用しながら連続的なイノベーションを起こしていくことが必要です。そのため、イノベーションの担い手であるスタートアップの徹底支援を通じて、新たなビジネス、産業の創出を進めることは喫緊の課題です。
- 他方で、地域の技術シーズをスタートアップの創出につなげることや、CNに代表されるようなビジネスモデルの構築が一筋縄ではいかない領域におけるスタートアップの成長は、先行事例も限定的であり、容易ではありません。
- そのため、(1) シーズの開発に取り組むスタートアップの創出支援、(2) シード・アーリー期のスタートアップの迅速なミドル・レイター期への移行に向けたビジネスモデル構築に向けた支援に取り組みます。

成果目標

- 支援終了1年以内に次のステージの資金調達に成功する割合が5割以上となることを目指します。

条件（対象者、対象行為、補助率等）



事業イメージ

(1) シーズ発掘及びその実用化に向けた支援

- 地域に眠る技術シーズ等を、起業により社会実装するための実用研究フェーズの費用について、ステージゲート型の補助により支援します。
- 補助率：定額 補助額（上限）：2,000万円

(2) ミドル・レイター期への迅速な移行に向けたビジネスモデル構築支援

- 事業シーズを有するスタートアップが事業化・拡大期（ミドル・レイター期）へ迅速に移行できるよう、VCや事業会社等の外部投資家による支援を受けて行うビジネスモデル構築に係る費用を補助します。
- 補助率：2/3 補助額（上限）：2.0億円

※ (1)・(2)ともに、以下の要件を満たす案件は採択審査において加点。

- ① 環境的価値がつくため、ビジネスモデルの構築に、より一層の課題があるエネルギー・環境分野の案件
- ② 技術シーズの活用など、地域の大学や企業等との連携を行う案件